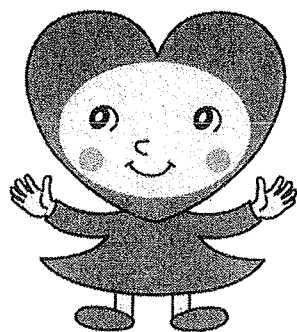


平成22年度  
能美市地域福祉活動計画

# 評価委員会報告



地域福祉活動推進のマスコット  
のみんなちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

## 平成22年度能美市地域福祉活動計画評価委員会報告

開催日時：平成23年3月24日（木）午後7時30分～9時30分

開催場所：辰口健康福祉センター

出席者：田中邦一委員長、村上洋子副委員長

高塚亮三（地域福祉人づくり委員会委員長）、宮田明（〃 副委員長）、井上徹（地域福祉ネットワークづくり委員会委員長）、吉田良（〃 副委員長）、喜多泉（地域福祉支えあいのしくみづくり委員会委員長）近藤沙夜里（〃 副委員長）西川方敏（私たちのボランティアセンターづくり委員会委員長）、橋場里志（〃 副委員長）  
（敬称略）

### 1. 評価の方法

アクションプラン推進協議会から提出された各アクションプラン委員会の自己評価をもとに、評価委員会では、各アクションプラン委員会同士が、質問を出しあい、回答を共有するということで、それを総合評価とした。

### 2. 報告・広報・周知

能美市地域福祉活動計画アクションプラン推進協議会長が、能美市社会福祉協議会理事会（3月29日開催）、評議員会（3月31日開催）へ報告する。

能美市社会福祉協議会は、能美市地域福祉活動計画アクションプラン委員会委員に報告すると共に、能美市社会福祉協議会広報誌・ホームページ等で、市民に対しても報告、広報、周知をはかる。

平成 23 年 3 月 28 日

## 平成 22 年度能美市地域福祉活動計画報告

能美市地域福祉活動計画  
アクションプラン推進協議会  
会長 高塚 亮三

3年目に当たる平成 22 年度能美市地域福祉活動計画も、平成 23 年 3 月 24 日に開催されました評価委員会を以って、全ての日程が終了致しました。本活動計画は、単に 1 年を掛けて、その時々テーマにそった活動を行なうのみでなく、振り返り、評価、報告、情報公開を行なうことが大切です。

今年度は、本活動計画が、5 年計画に折り返し点に当たることと、また、1 年先行して実施されている能美市地域福祉計画、障害者計画、高齢者福祉計画が、4 年目に入り、計画の見直しが意識される時期にきていることを視野に入れながら活動計画が推進されました。

人づくり委員会は、本年度、新しい福祉教育の在り方について、討議を重ねてきましたが、谷口寺井中学校長に教育委員会の窓口になっていただきました。

支え合いのしくみづくり委員会は、今年度、子育てへの父親参加を支援するための新たな取り組みを行ないました。

ネットワークづくり委員会は、能美市 74 町会・町内会のうちの 81%に当たる 60 町会・町内会に地域福祉委員会の設置を広めることができました。各地域福祉委員会の活動内容には、格差が見られますが、その活動内容の更なる充実を目指した取り組みも重ねてきました。

私たちのボランティアセンターづくり委員会は、3 年間協議を続けてきた「能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター」の機能充実に関する内容を「提言書」にまとめ、社会福祉法人能美市社会福祉協議会に提出しました。

以上の活動は、2月12日から2週間にわたり、「よろっさ、やろっさ、つなごっさ！春まち ぼかぼか プロジェクト」と銘打って、報告会を行い、昨年度にも増して多くの延べ人数の市民の参加を得ることができました。

能美市全体を見渡せば、市民生活には、一時の停滞も許されず、数限りない活動が行なわれています。それらの活動の一つひとつが豊かな能美市づくり、豊かな地域づくりに結び付くためには、活動の方向性を知り合い、連携し合う必要があります。とりわけ「能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター」の充実に心を砕いている、能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会及び私たちのボランティアセンターづくり委員会にとっては、「協働センター」の行方が気懸かりなところでもあります。両センターが十分な意思の疎通を図ることが望まれます。

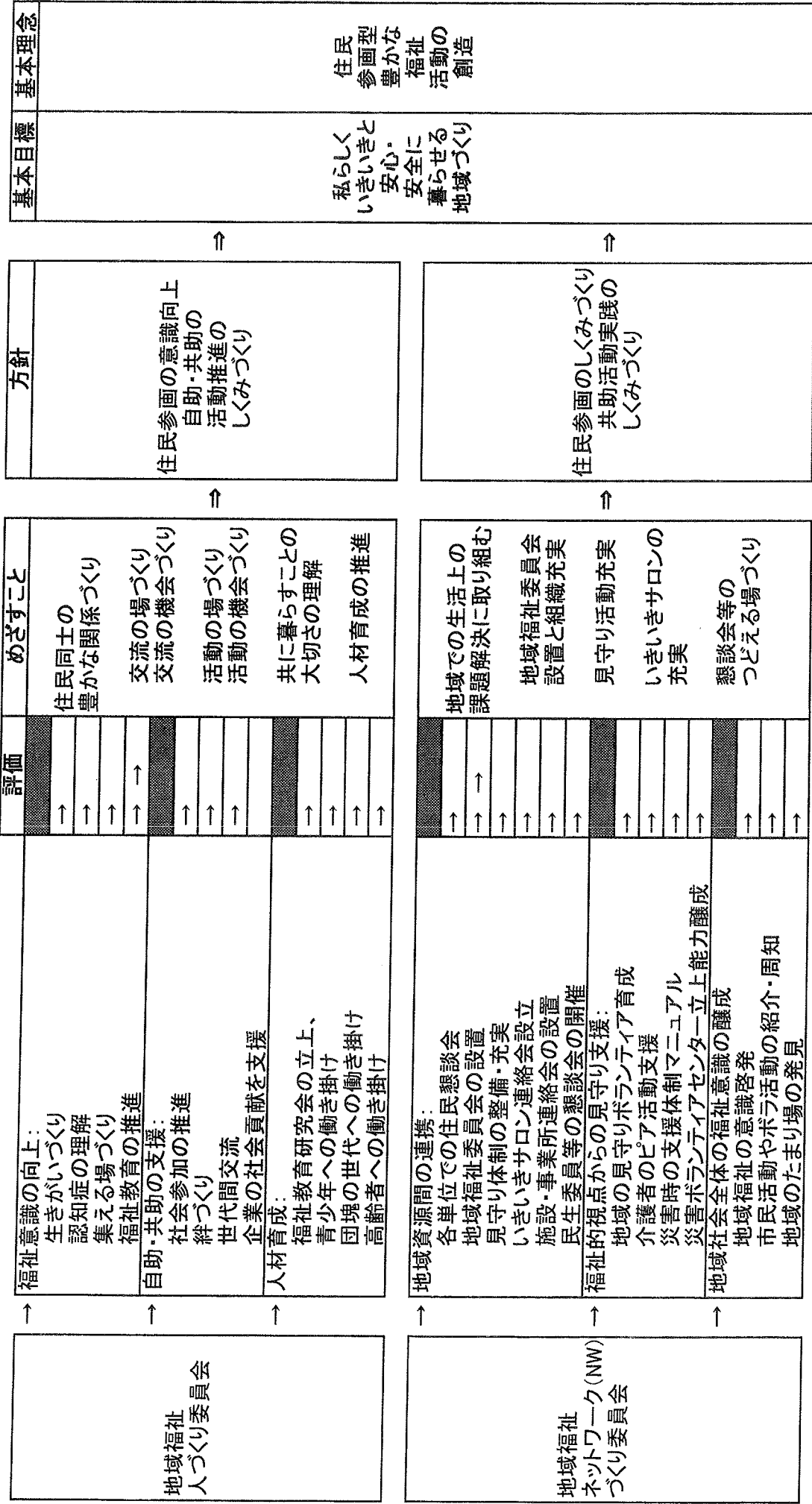
また、地域福祉は、「福祉教育にある」と言っても過言でないほどに、「福祉教育」は重要なテーマです。地域福祉になって、より小規模地域に分割されて、福祉活動が推進されることは、福祉の更なる充実に寄与するはずですが、そのためには、飛躍的な数のリーダーが必要になってきます。リーダーの育成は差し迫った課題です。市民一人ひとりの意識の在り様も大切な課題です。この課題の取り組みには、教育委員会と連携した新しい「福祉教育」の推進がどうしても必要です。

能美市の現状を見渡したとき、日常的なふれあい、話し合いの大切さ、また各分野でなされている会議録の情報公開、またそれぞれの活動の方向性や進捗状況を示すPERT図の公開の大切さを痛感します。市民一人ひとりには地域に対してボトムアップの関わり方が求められています。

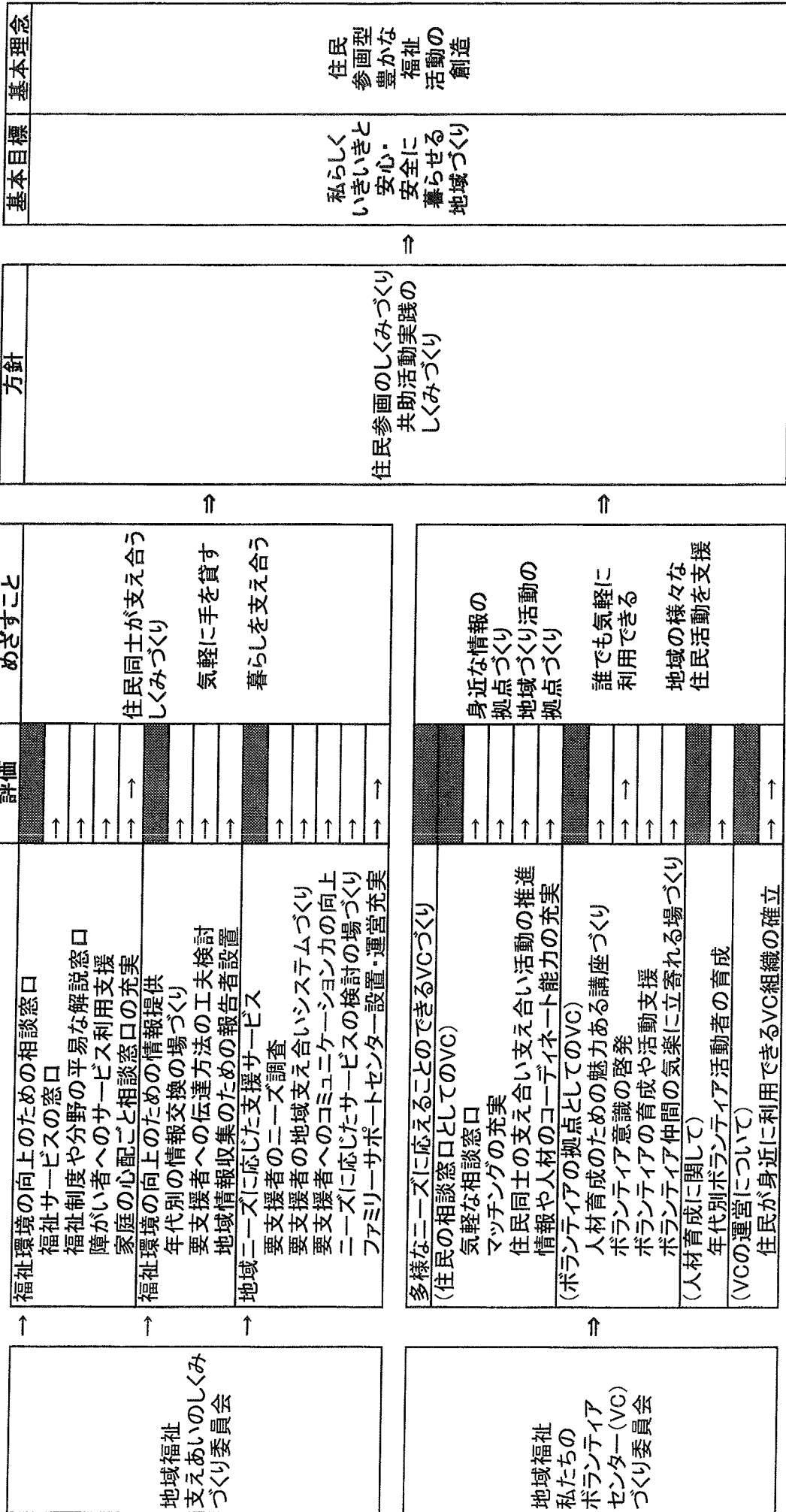
幸い、能美市社会福祉協議会の職員諸氏の努力により、能美市地域福祉活動計画の全ての会議録が、ホームページで公開されています。また、これまでは、能美市地域福祉活動計画体系図に基き、活動してきましたが、体系図をPERT図に替えて、5年計画を遂行する上で、クリティカルパス（生産工程やプロジェクトなどで、お互いに従属関係（前工程が終わらないと次工程に進めないなど）にある複数の作業のうち、開始から終了までをつなぐ時間的余裕のない一連の作業の集まりのこと）が、何処にあるかを見極め活動することが、次年度からの課題です。

このことを能美市社会福祉協議会の理事会及び評議員会に報告し、各分野でご活躍の理事、評議員の皆様が能美市地域福祉活動計画への一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

# ◆ 能美市地域福祉活動計画PERT図 I



◆ 能美市地域福祉活動計画PERT図 II



アクションプラン委員会	地域福祉人づくり委員会			
目標 (5年間)	1. 交流の場への参加者数(ふれあい福祉運動会・ふれあい踊りの夕べ・ボランティアのつどい) 1,800人を3,000人に 2. 認知症サポーター養成講座の開催回数 8回 から 30回に			
★重点項目と 目指したい アクション プラン	★認知症サポーター 養成講座の開催	★福祉教育の研究会 の立ち上げ	★地域へのボラン ティア・担い手養成 出前講座	・地域に暮らす様々な人の思いについてお互いの理解と共生の意識を高める 取組み・世代間ふれあい交流の促進・ 相談事業の展開などの福祉専門職や施 設の活用・企業も巻き込んだ団塊の世 代の社会参加活動の推進など
どこまで 達成 できたか (3年目)	1. 認知症サポーター 養成講座の開催 (サポーター数) ⇒ 18 回 (469人)	2. 福祉教育の研究会 の立ち上げ ⇒ ——	3. 地域へのボラン ティア・担い手養 成 出前講座 ⇒ ——	4. その他「交流の場」への参加者数 ⇒ 1,630人 ふれあい福祉運動 会 510人、ふれあいサンパ120人、市 民VOフェス1,000人  認知症サポーター養成講座は、ただ、受講するのではなく、受講後、自分が認知症にどのような関わり方ができるかを考えることにより福祉の人づくり、まち(地域)づくりにつながることを確認した。特に「福祉の人づくり」とは、「人のところに寄り添える人をつくる」とこととした。また、認知症キャラバンメイトとなった市内福祉施設関係者のゆるやかなネットワークを作ったことは、認知症の方を地域で支える包括的なケア体制を構築していくためのひとつのきっかけとなった。更に、講座での質問は認知症予防に関するものが多く、地域の介護力の向上や認知症予防に力点が置かれ、福祉意識の向上は2次的なものに留まっているように思われた。3年目の今年度前半も2年目の成果を受け継ぎ、当講座は行なわれた。  3年目の今年度は福祉教育研究会を立ち上げるに当たって、先ず福祉教育とは何かを議論した。また、日本福祉大学の原田氏を招き、7月と2月の2回、新しい福祉教育を踏まえた講演をしていただいた。その新しい福祉教育に必要な6つの視点で、今年度の人づくり委員会でなされた論点をまとめた。 ①地域ぐるみの福祉教育：誰もが命、生活(ライフ)を大切にして暮らすために「まなびフェスタ」を活用して、初年度より地域ぐるみで福祉を学ぶ場としてきた。 ②本物の福祉を伝える：学びの場に常に当事者が参加し、ライフ(障がい、老い)のリアリティを体得する機会としてきた。 ③共に学びあうこと：福祉教育とは何かを今年度話し合う中で、大人も子どもも共に学ぶ、「共育」の視点も必要であることが確認された。 ④地域と学校の協同実践：地域としての社協(人づくり委員会)が学校(教育委員会)側としての谷口寺井中学校長と話し合う機会を持ち、地域と学校が協働し、協同実践する方向性が生まれた。 ⑤地域還元型の学び：福祉に関する学びは地域に還元されなければならないし、小規模な単位の地域で日常的に「集い ふれあい 知り合う」ためには公民館を活用したいという意見が多く寄せられ、公民館の運営のあり方に対する要望も多数寄せられた。 ⑥振り返りの機会をつくる：「よろっさ やろっさ つなごっさ」は地域福祉活動計画の振り返りと、地域の方々の幅広い意見を出し合う機会であり、福祉事業の一つひとつの振り返りの機会でもある。金城大学の内氏も当地域福祉活動計画の振り返りの取り組みを評価した。  本年度も福祉教育研究会の立ち上げができなかったが、初年度より一段一段と福祉の学びを通して上ってきた足跡を辿るとき、単に我々は停滞していたのではなく策定当初思い描いていたルートとは異なるルートで着実に頂上を目指していると言えるのではないだろうか。
今後の課題	・次年度に向けての課題は、福祉教育研究会という固定的な組織の代わりに福祉教育推進のプラットホームを社協に作り、ミッションを共有する行政や社協、各種事業所、ボランティア団体、個人に至るまで夫々が協働して役割を果たし、協同実践(共同作業)を行なって目的を達成すれば、そのプラットホームは解散する。新しいプラットホームを新しいミッション達成のためにまた立ち上げて、機動的な組織でダイナミックに諸課題に立ち向かわないと、激しく変化する福祉意識に対応できないのではないかと。			

評価

- ①「認知症サポーター養成講座」については、福祉のまちづくり、地域の介護力の向上、認知症予防と受講者にはいくつかの視点があり、その目的と内容を明確にする必要がある。
- ②今年度も福祉教育研究会を立ち上げることができなかったが、1年毎に当委員会の福祉意識の内容も充実してきており、地域福祉活動計画を策定した時点で想定していた概念を超えており、新しい福祉教育の在り方とその組織の在り方にも目を向けるようになったことは評価に値する。

★重点項目と  
目指したい  
アクションプラン

★認知症サポーター養成講座の開催	★福祉教育の研究会の立ち上げ	★地域へのボランティア・担い手養成出前講座	・地域に暮らす様々な人の思いについてお互いの理解と共生の意識を高める取組み・世代間ふれあい交流の促進・相談事業の展開などの福祉専門職や施設の活用・企業も巻き込んだ団塊の世代の社会参加活動の推進など
------------------	----------------	-----------------------	--

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）

第1回 会合 (6/8)	<p>1)委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員紹介後、昨年度に引き続き委員長、副委員長選出</li> </ul> <p>2)これまでの経過説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成20、21年度評価委員会報告、まなびフェスタ2010第4分科会報告集から</li> </ul> <p>3)今年度の協議内容及び年間スケジュールの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AP推進協議会とAP委員会間の関係の整理</li> <li>・ 人づくり委員会での福祉教育を定義づける事に取り組む。</li> </ul>
第2回 会合 (7/6)	<p>1)H22年度の委員会の方向性を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期(H22年度)と中期(H22・23年度)という期間を想定しながら、取り組む</li> <li>・ 「人づくり委員会」の取り組みを「調査研究事業」とし、研究的なアプローチ(接近方法)で取り組む</li> <li>・ 「まなびフェスタ」を「調査研究」の試みの機会とし、「提言」として市民に発信していく</li> <li>・ 事務局員も委員会の中で委員と共に試行錯誤しながら進める</li> </ul> <p>2)「福祉教育」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状、課題の洗い出し、福祉教育の対象の絞り込みをする。…(継続審議)</li> </ul> <p>3)年間スケジュールの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月26日に開催予定の福祉協力校活動連絡会に参加</li> </ul>
第3回 会合 (8/3)	<p>1)各種研修会参加報告…7月26日福祉協力校活動連絡会(原田氏の福祉教育についての講演)</p> <p>2)「福祉教育」と「福祉共育」について…人づくり委員会から見た「福祉教育」に関する見取図【案】提示</p> <p>3)年間スケジュール&lt;案&gt;について…2011学びフェスタでの分科会へ申込みを行う、委員会独自に障害者・児とふれあい体験を行う事を決定</p>
第4回 会合 (9/14)	<p>1)各種研修会参加報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心を癒すコミュニケーション講演会</li> </ul> <p>2)「福祉教育」と「福祉共育」について…(継続審議)</p> <p>3)市主催事業の「障害者記念週間事業(12月3～8日)」について…人づくり委員会の取り組み方を考える。</p> <p>4)今後の予定…「障害者記念週間事業」、学びと小さな試みとしての検討(案)、予備知識の習得を行うことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「予備体験の確認、分析」</li> <li>・ 「障害者記念週間事業との関わり方」</li> <li>・ 「学びフェスタの具体的な検討」を行い、12月開催の「障害者記念週間事業」に臨むことで決定。</li> </ul>
第5回 会合 (10/13)	<p>1)「福祉教育」と「福祉共育」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見取図の整理・確認(継続審議)</li> </ul> <p>2)「まなびフェスタ」申し込み取り下げについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月15日に社協理事会開催、社協としての、まなびフェスタへの参加についての考え方の確認。</li> <li>・ 人づくり委員会としての報告は、日時と場所を仮押さえる。</li> </ul> <p>3)「障害者週間記念事業」(能美市、ともろっさ・能美主催)の関わり方について…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人づくり委員会として、独自に施設・事業所等を見学してまわるという(案)をとりやめとする。</li> <li>・ 人づくり委員会は、一市民として、「障害者週間事業」へ参加する。最終日の12月9日(地域で障害を考える会)は、全員が参加することとする。</li> <li>・ 認知症高齢者グループホームの見学とふれあいは「障害者週間記念事業」とは別に参加する。</li> </ul>
第6回 会合 (11/6)	<p>1)各種研修会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「心に寄り添うピアカウンセリング・スキルアップ講座」報告</li> </ul> <p>2)「障害者週間記念事業」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会として満遍なく、各ふれあいプログラムに参加する。その後で意見交換をする。</li> <li>・ 参加するプログラムを決めて、委員の参加について福祉課に申し込みをする。</li> </ul> <p>3)「地域福祉フォーラムについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月19日(土)①ふれあい体験②話し合い③原田氏の福祉教育についての講演を「人づくり委員会」として取り組む。</li> <li>・ 障害者・児が参加できる環境づくりが必要なので、原田氏の福祉教育についての講演を先端大に、ITの部分で手伝ってもらうことをお願いしてみる。</li> </ul> <p>4)「まなびフェスタ」申し込み取り下げについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11/6午後、委員長・副委員長がまなびフェスタ実行委員会と協議、参加しないこととなった。</li> </ul>
第7回 会合 (12/16)	<p>1)各種研修会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「障害者週間記念事業」報告</li> </ul> <p>2)「地域福祉フォーラムについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員会の委員は20人程度とし、準備会を招集し、それから、実行委員会になおすことにする。</li> <li>・ 会場は能美市辰口健康福祉センター全館を会場とする。映像について、各部屋にモニターの設置など、全体会場に混じりにくい、障害のある方の参加について工夫をする。音声については、音声なしの部屋も必要とし、ITに関することは、今後、先端大と調整しながら進めていく。</li> <li>・ 作業所や事業所の授産品の販売など自立支援協議会事業所連絡会などを通じて依頼していく。</li> <li>・ 「ふれあい福祉事業」は社協事業の「ふれあい踊りの夕べ」予算(10万)を充て、実行委員会と社協が共催で行う。</li> <li>・ 主な内容は、ガンザ(楽器)をつくり、事前講習を受けて、サンパを通じて、障害のある方と市民がふれあう。その後、ワークショップと講演を行う。講演はテーマを絞る。</li> <li>・ 正副会長会で、当日までのタイムスケジュール及び当日のプログラムの(案)をつくり、次回会議に提出する。</li> </ul>



実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）

<p>第8回 会合 第1回実 行委員 会 (1/6)</p>	<p>1)これまでのながれ(内容の確認)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成21年度 地域福祉ウィークにおける人づくり委員会の取り組み</li> <li>・ 平成22年度 地域福祉ウィークにおける人づくり委員会の取り組み</li> <li>・ 人づくり委員会協議経過一覧、地域福祉ウィークスケジュール</li> </ul>                 2)実行委員会組織について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介</li> <li>・ 運営・係分担について…委員長、副委員長選出 プログラム(案)について検討</li> </ul> </p>
<p>第9回 会合 第2回実 行委員 会 (1/14)</p>	<p>1)プログラム(案)について検討  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的 のところで何故、「サンバ」なのかを補足説明する。講演のテーマ、協力者、日程、特記などを検討。</li> <li>・ 実行委員会メンバーは、当日は、参加者をサポートする側にまわるので、サンバやガンザづくりは、集いの前に、一度、体験する。(1月23日に実施)</li> </ul> </p>
<p>第10回 会合 第3回実 行委員 会 (2/7)</p>	<p>1)障害者の“がい”の字について意見交換…人づくりでは平仮名表記にする。                  2)参加者の取りまとめ、運営・係分担について最終確認  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員メンバーに当日必要なガンザをいくつか作ってきてもらうために持って帰ってもらう。</li> </ul> </p>
<p>第11回 会合 第4回実 行委員 会 (3/1)</p>	<p>1)プログラム3「集い ふれあい 知り会おう」についてふりかえり                  ①グループワークからの報告                  2)平成23年度人づくり委員会評価委員会報告について</p>

アクションプラン委員会	地域福祉ネットワークづくり委員会	
目標 (5年間)	地域福祉委員会の設置 H23年度までに74町会に設置する。 設置後は、活動の充実をはかって、いきいきサロン連絡会・見守りネットワーク連絡会・地域福祉委員会協議会を立ち上げる。	
★重点項目と 目指したい アクション プラン	☆地域福祉委員会の設置 ☆地域福祉委員会モデル地区指定 ☆地域福祉活動の重点項目 ＊見守りネットワーク活動の充実 ＊防災訓練の実施 ＊要援護者支援体制の整備 ＊住民懇談会の開催 ＊児童の見守り体制の充実 ＊広報PRを計る	☆いきいきサロンボランティア連絡会の立ち上げ
どこまで 達成 できたか (3年目)	◇地域福祉委員会設置数 (H23年3月1日現在) 60町会/74町会 81% 16地区/16地区 100% 計76地区区域/90地区区域 84%  ◇地域福祉委員会設置推進と設置後の活動充実を図る 「地域福祉委員会活動ヒント探し講座」を入門編・実践編と内容を段階別に分けて開催し、推進状況に応じた活動や取り組みについて理解を深めた。  ◇重点地区地域福祉委員会の指定 ・6重点地区を指定 ・重点地区連絡会(3回)とヒント探し講座・実践編(住民流支え合いマップづくり講座受講) ・重点地区活動報告会を開催(他町会への情報提供・啓発の機会)	◇昨年度作成はしたものの、市民に配付するまでは至らなかったいきいきサロン活動手引書を「地域福祉委員会活動ヒント探し講座・入門編」の受講生に配付し、サロン活動の意義をふまえて地域での活用を促した。(内容追加などの改訂も視野に入れる)  ◇根上地区と辰口地区では福祉推進員がいきいきサロンの担い手となっている地域が多く、福祉推進員研修会を開催し、情報・意見交換を通して、サロンと地域福祉委員会の活動について理解を深めた。  ◇老人クラブ連合会各支部の研修会として、いきいきサロン理解促進講座を開催し、サロン開催の意義を伝え、特に男性の参加を促した。
今後の課題	①既設置町会の実態を把握し、より一層の活動充実を支援及び未設置町会の実情把握及び設置への支援の検討(先進町会の活動状況などの情報提供) ②より実践的活動につながるような取り組みを支援していくため、重点地区指定について更に検討。 ③地域福祉委員会活動について理解を深め、その核となる活動者を養成する講座の継続開催と内容を段階別に体系化することを更に検討。 ④今後、より実践的な地域福祉委員会活動が行えるようにQ&A集の作成に取り組み、内容について協議を重ねたが今年度は完成までは至らず、次年度も継続協議し完成させた上で、町会に配付することを検討。	①いきいきサロンボランティア連絡会を継続して開催することができなかつたため、継続開催していく働き掛けや担い手が集まる機会を活用し情報交換が行えるような工夫を検討。 ②サロンの主な担い手を福祉推進員や民生委員に限定することなく、広く地域住民にサロン活動の意義をふまえて、理解と関心を持ってもらえるような機会をつくることを検討。(単に担い手の意見・情報交換会とはせず、新たな担い手づくりの機会)
特記	・社会福祉協議会、市と連携しながら行う。 ・多様な立場の方との協働を推進する上で、ネットワークづくり委員会委員構成を検討する。	

### 評価

- ①「地域福祉委員会活動ヒント探し講座」を入門・実践編と内容を段階別に分けて開催したことは、福祉意識の高まりや福祉の取り組み・活動の推進状況など町会それぞれの違いに合わせたカリキュラムとして、それぞれの視点で、今後の活動に向けて理解を深めた。また、重点地区地域福祉委員会活動報告会を開催したことは、重点地区にとっては更なる活動推進の機運を高め、他町会へは情報提供の機会として、先進町会の活動を参考とし、町会して福祉の取り組みを考えるきっかけづくりとなり、広く福祉意識の醸成に繋がった観がある。
- ②上記①から町会と福祉の関係について、町民同士の話し合いや交流の拠点としての公民館活用や、公民館事業(町会行事)と地域福祉委員会活動との連携が大切であるとの声が多く挙げられた。このような市民の気づきを広めていくことが、公民館(町会)と福祉の連携に繋がるため、次年度以降も①の取り組み継続が望まれる。
- ③昨年度、いきいきサロンボランティア連絡会を立ち上げ、情報・意見交換したり、活動手引書を作成したが、今年度は継続して開催することができなかつた。次年度はその開催に向けて、各地区の核と成り得る方への働き掛けや、サロンの主な担い手を福祉推進員や民生委員に限定することなく、広く地域住民に参加を呼び掛け、サロン活動の意義をふまえて、理解と関心を持ってもらえるような機会づくりを検討することが望まれる。(サロン活動者の事例紹介、意見・情報交換などが相互の活動充実や新たな担い手養成に繋がるような機会)
- ④地域福祉委員会設置数は、3年目として新たに6町会が設置された。昨年度からの継続課題として、未設置町会の実情を把握し、設置への支援や設置への難しさや要因を考慮し、単に設置を形だけにしない方法なども検討する必要がある。

アクションプラン委員会		地域福祉ネットワークづくり委員会	
★重点項目 と 目指したい アクション プラン	★地域福祉委員会の設置と 重点地区指定	★いきいきサロンボランティア 連絡会の立ち上げ	地域福祉活動の重点項目 ・見守りネットワーク活動の充実 ・要援護者支援体制の整備 ・児童の見守り体制の充実 ・防災訓練の実施 ・住民懇談会の開催 ・広報PRを図る
	実践活動内容 (こんなことを話し合い、 行ったか)	第1回 会合 (6/8)	1) 委員紹介 2) 委員長・副委員長の選出 3) 能美市地域福祉活動計画と経過説明(平成21年度評価の確認) 4) 今年度のネットワークづくり委員会として協議の方向性を検討 ・既設置町会地域福祉委員会の活動充実への支援 ・いきいきサロンの活動充実への支援 5) ネットワークづくり委員会年間スケジュールの予定
第2回 会合 (7/21)		1) 地域福祉委員会活動ヒント探し講座の申込状況 ・今年度は、【入門編】【実践編】の2講座開講 2) いきいきサロン活動の手引書について ・昨年度作成した手引書の内容についての確認 ・市内各町会への配付方法について協議 3) 地域福祉委員会の活動充実への支援 ・地域福祉委員会活動について、わかりやすく周知するための「Q&A集」の作成など	
第3回 会合 (9/22)		1) 地域福祉活動計画3年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について ・全体的な方向性 ・ネットワークづくり委員会として企画するプログラム 2) 全国校区・小地域福祉活動サミット／ふれあいいきいきサロン全国研究集会の研修報告(吉田副委員長) 3) 今年度のアクションプランについて ・いきいきサロンの活動手引書の配布方法 ・地域福祉委員会Q&A集の作成	
第4回 会合 (10/27)		1) 各委員からの報告 ・各委員が自分たちの町の町(内)会長に地域福祉委員会についての思いを聞き取り報告 2) 地域福祉委員会Q&A集(仮称)について ・市福祉課が作成したQ&A集のたたき台を協議 3) 地域福祉活動計画3年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について ・全体的な方向性 ・ネットワークづくり委員会として企画するプログラム	
第5回 会合 (11/24)		1) 地域福祉活動計画3年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について ・全体的な方向性 ・ネットワークづくり委員会として企画するプログラム 2) 地域福祉委員会Q&A集(仮称)について ・市福祉課が作成したQ&A集のたたき台協議	
第6回 会合 (12/21)		地域福祉活動計画3年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について ・全体的な方向性 ・ネットワークづくり委員会として企画するプログラム ・その他	
第7回 会合 (1/19)		地域福祉活動計画3年目の取り組みについての市民への周知、報告の方法について ・前回協議内容をふまえたプログラム(案) ・今年度のアクションプランの評価に向けて ・その他	
第8回 会合 (3/4)		1) 地域福祉活動計画3年目の取り組みの報告の機会について ・『春まち ぽかぽか プロジェクト』の振り返り ・ネットワークづくり委員会と全体アクションプラン委員会のプログラムの振り返り 2) 今年度のアクションプランの評価について ・21年度評価と22年度評価(案)の比較・協議 3) その他	

アクションプラン委員会	地域福祉支え合いのしくみづくり委員会		
目標 (5年間)	1. ファミリー・サポート・センター利用件数 50件に 2. 登録者数 協力会員 50人以上に 依頼会員 50人 3. サポーター養成講座の開催 年1回 4. サポーターフォローアップ研修会及び交流会を年2回		
★重点項目と目指したいアクションプラン	★「支え合いのしくみ」「たすけあい」に関する住民の理解をすすめる	★ファミリー・サポート・センターの運営の企画、実践(運営委員会構築)	★子育てサポーター養成講座や交流の機会をつくる
どこまで達成できたか(3年め)	今年度は、学童の保護者にファミサポの主旨を知ってもらうため、委員が児童館を廻りお迎えに来ている親への啓発をしてみた。(市内児童館11箇所) ファミサポを知らない方が大半で(名前を知っていても内容がわからない)、個別に具体的な話をして理解を得られた。また、多くの地域の方にも、理解をしていただくために、地域福祉委員会の会合に出向き、寸劇を交えた啓発を行った。その地域をよく知っているお世話役の方に、ファミサポを理解していただくことで、サポートの必要な家族に声をかけてもらったり、協力会員への登録が増える事を期待する。地域福祉委員会での反応は、寸劇による効果があったのか、真剣に話を聞き、質問もあり、理解を得られたと感じている。	運営委員会を年5回開催する。 運営委員長は東寿美恵氏に決定する。 1年間の講習会、研修会の内容などを検討し、実践する。 その他、依頼の問題点などがある場合、相談しながら対応を検討した。	協力会員養成講座(全6講座) 全会員対象交流会3回 ・親子サロン合同レクリエーション ・親子サロン合同新年会 ・フォローアップ研修会後の交流会 フォローアップ研修会 3回 地域福祉ウィーク「ようこそ のみんな広場へパートII」 絵本やおいしいお茶などで、親子で楽しみながらくつろぐことができた。子育て中のママパパによる演奏では、会場一体で盛り上がることができ 今年度は障がいのある子どもの預かりや送迎など依頼があれば、すぐ対応できるように、障がいについての研修会を取り入れ、理解を深めた。
後の課題	・家庭内(イクメン)での支えあいができるように啓発活動を行う。 ・昨年度の課題で、10代等の青少年に対するアクションがおこすことが出来なかったため、次年度は高校生などと、意見交換などができる場を作り、理解や関心をもってもらいたい。次年度は、早めに取り組みをする。 ・今年度、保護者が会する所に出向けなかったため、新年度の総会に行き啓発活動をする。	いろいろな共通理解をもつために、定期的な開催が必要。	実際には、まだ障がいを持った子どもたちへの対応が、万全ではない。さらに、研修をし、理解を深める会を持つ。また、緊急サポートが廃止されるため、病後時預かりの、協力会員を増やす。
特記	三年目の取り組みについて、昨年度をふまえ、「子育て支援」について啓発活動を行ってきた。支え合いのしくみについて理解し、依頼会員は増加したが、協力会員の伸び悩みがあり、昨年より増して一層住民の理解をすすめたい。 今年度のまとめとして地域福祉ウィーク「ようこそ のみんな広場へ！」を昨年に続き開催したところ、大盛況だった。父親参加を目的としての、日曜日開催にしたところ、たくさんの父親が来場してくれたことで子育てへの関心の深さを感じられた。		

## 評価

- ①児童館などを廻り、個別に学童の保護者へ啓発活動を行うことで関心や、理解をしてもらうことが出来た。また、地域の小さな会合等へも出向いて、協力や理解をを促す機会を持った事は、啓発につながったと思う。
- ②ファミリー・サポート・センターの運営委員会を立ち上げたことにより、いろんなケースでの共通理解をもつことができようになった。
- ③ようこそ のみんな広場へパートIIを開催してみて、子育て中の親子には、「のみんな広場」のような“ゆるやかな空間”が必要と感じた。また、今回は、父親の育児参加をテーマにした寸劇により、母親だけでなく父親のにも子育ての楽しさや大切さを伝えることができた。
- ④次年度の方向性として、父親参加の子育てについて、更に関心や理解を広く求めることとする。

アクションプラン委員会		地域福祉支え合いのしくみづくり委員会			
実践活動内容（どんなことを話し合い、行ったか）	★重点項目と目指したいアクションプラン	★「支え合いのしくみ」「たすけあい」に関する住民の理解をすすめる	★ファミリー・サポート・センターの運営の企画、実践（運営委員会構築）	★子育てサポーター養成講座や交流の機会をつくる	・「支え合いのしくみ」のモデルとして、子育て支援のしくみファミリー・サポート・センターから取り上げてすすめます。 ・関係機関との連携をはかる（相談窓口の充実）
	第1回会合（6/8）	1) 委嘱状交付・委員自己紹介・委員長、副委員長選出 2) 経過説明 ・ファミサポの啓発活動を推進してきた。（人と人とのつながりが目的であることの理解と説明） ・運営委員会の立上げ ・協力会員養成講座・全会員対象交流会 3) 今年度の協議内容及び年間スケジュールの確認 ・ファミサポの啓発をし、協力会員を増やし、協力会員が負担無く預かることができるようなシステムを目指したい。 ・ファミサポの充実 ・基本は、2ヶ月に1回の開催。必要に応じて増やす。時間帯は、基本日中。 4) 能美市ファミリー・サポート・センター昨年度実績及び状況について			
	第2回会合（7/23）	1) 能美市ファミリー・サポート・センター運営委員会について状況報告 ・ファミサポ協力会員研修 2) 協議内容 ・今年度の啓発活動について（8月に児童館へ行く） ・障害を持った子どもと病後時の関わりについて 3) 男性育児休暇について ・先端大研究員山崎氏による意見を聞く			
	第3回会合（9/8）	1) 能美市ファミリー・サポート・センター運営委員会について状況報告 ・講習会に反省について、ファミサポ通信について、フォローアップ研修について 2) 8月の啓発活動の反応及び報告 ・能美市内児童館へ啓発 3) 福祉ウィークの取り組みについて			
	第4回会合（11/18）	1) 能美市ファミリー・サポート・センター運営委員会状況報告 ・フォローアップ研修で、障害を考える座談会を行う。 2) 啓発活動について ・地域への啓発。市役所やいきいきサロン、町の集まりに出向いて行く。 12月4日 泉台町地域福祉委員会へ寸劇（のみん劇団）を行う。 3) 福祉フォーラムについて ・昨年と同じ様に、リラックスして話しあえる空間を作る。サロン感覚で来ていただける場所づくり。 ・ミニコンサートをを行う。			
	第5回会合（12/20）	1) 啓発活動について 12月4日 泉台町地域福祉委員会でファミサポ協力・依頼会員募集の寸劇（のみん劇団）を行った。 地域福祉委員会からの質問が出たので、関心をもっていただけたと思う。 2) 福祉フォーラムについて ・内容の確認 絵本とお茶でくつろいでもらう。ミニコンサートをを行う。イクメンパパ向けの寸劇。父親同士のつながり。 ・予算の確認（御礼金、消耗品、会議費、給食費） ・準備の日時の確認（2月10日）			
	第6回会合（1/28）	1) 能美市ファミリー・サポート・センター運営委員会状況報告 ・H20年度会員登録3年目の更新と3月19日のフォローアップ研修の案内。 2) 2月13日（土）の企画・運営についての打合せを行った。 3) 2月26日（土）の全体AP委員会の参加の確認を行う。			
	第7回会合（3/14）	1) 能美市ファミリー・サポート・センター運営委員会状況報告 ・緊急サポート廃止の説明会に参加。 2) 地域福祉計画3年目の取り組み（春まちぼかぼかプロジェクト）について ・ようこそのみん広場へ!!パートIIと全体AP委員会の振返り 3) 評価について 4) 啓発活動について ・小学校の総会へ、啓発に行く予定。			
第8回会合					

アクションプラン委員会	私たちのボランティアセンターづくり委員会		
<b>目標</b> (5年間)	1. ボランティア登録者数 2, 323人を 4, 900人に 2. ボランティア活動把握数 3, 965人を 6, 200人に 3. ボランティア講座数(延べ) 14講座を 20講座に		
<b>★重点項目と 目指したい アクション プラン</b>	<b>★ボランティア・コミュニティ 活動支援センター運営委員会の 構築</b>  文中ではボランティア・コミュニティ活動支援センターを ボランティアセンター・ボラセンと表記します。	<b>★ボランティアの活動拠点とし ての情報システムの構築</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実</li> <li>・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり</li> <li>・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成</li> </ul>
<b>どこまで 達成 できたか (3年め)</b>	<p>1年目の規約づくり、2年目は運営委員会委員の選出団体を決定し、本年度は、実際に運営委員会が始動した。</p> <p>3回、運営委員会を開催し、本年度の事業を基に、次年度の事業を計画した。ボラセンづくり委員会との合同開催との形を取って、進めたが、懸念していた役割の明確化での混乱は生じなかった。</p>	<p>ボランティアの活動・情報の拠点として 1年目にボラセンの周知のためのポスターを作成し、市内各所に掲示・貼付した。2年目は情報発信・収集のボラセンの独自ホームページを開設した。本年度は、さらにホームページの充実を検討し始めると同時に、ボランティアリーダーカレッジにおいて、周知を行った。</p>	<p>上記アクションプランについても、ボラセンの周知がすすみ、活用されることが基本となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の相談窓口としてのマッチング機能充実</li> <li>・ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり → 検討項目の基本的な部分ではあるが、意見をまとめ、提言することができた。</li> <li>・各年代層や各地区、各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成 → これらを運営委員会での事業計画に反映させた。意識啓発のために地域へ出前することや、他団体との連携をすすめることを基本に組み立てた。</li> </ul>
<b>今後の課題</b>	<p>運営委員会として時間的に、事業計画の時間が不足していたことは否めず、部会の開催も視野に入れての、今後の検討の必要性を認識した。</p>	<p>①多くのボランティアグループの情報発信や、市民の知りたいことなどに対応できるよう、内容の充実を図る。</p> <p>②活用してもらえよう、周知と利用促進の講座が必要であり、その際には、登録権限などの規定についても十分に研究していきたい。検討部会の設立も考えていきたい。</p>	<p>2年間の報告会で得た、意見を検証し、今後のセンターの実現化に向けて、詳細を詰めていかねばならない。</p> <p>基本は、市民がつどい、語り合う場を創出することが、つながりを生み、支え合いの地域づくりやボランティアの拡充に必要であること。その点についての理解を広めていきたい。</p> <p>そのためには、少しずつでも試みる必要がある。</p>

### 評価

- ① 市民が参画するボラセンの運営委員会を始動させることができた。1年目の規約作りから、2年目の選出母体の決定やAP委員会との役割の明確化をすすめ、本年度、ボラセンの事業計画づくりを行えたことがよかった。AP委員会と運営委員会を一緒に開催することで、認識を共有するメリットが得られた。その中で、方向性を検討するAP委員会、事業としてそれを活かしていく運営委員会と、役割が明確化できた。
- ② ボランティアの活動拠点としての周知をすすめるポスターの貼付と、情報発信や収集拠点としてのホームページの開設を2年目に行い、本年度は、その充実をすすめた。まずは、周知を目的に、ボランティアリーダーカレッジ講座などを利用し、周知をすすめたが、今後は、実際に活用してもらえようとする仕組みをすすめていきたい。
- ③ ボラセンに求められていることの意見を集約し、具体化に向けての議論をすすめ、委員会として、具体的な提言まで達成することができた。特に、多種多様な団体や人が意見交換する機会の重要性を理解することができた。
- ④ 地域の課題に対応した事業を組み立てていくためにも、多くの人が集い、語り合える場こそ必要であり、気軽に自由な発想で、意見交換ができる場づくりの実現を試み、検証・提言していきたい。

★重点項目と  
目指したい  
アクション  
プラン

★ボランティア・コミュニティ  
活動支援センター運営委員会の  
構築

★ボランティアの活動拠点とし  
ての情報システムの構築

・住民の相談窓口としてのマッチング  
機能充実・ボランティア個人や団体の  
活動支援や交流の場づくり・各年代層  
や各地区、各分野へのボランティア意  
識の啓発と人材育成

文中ではボランティア・コミュニティ活動支援センターを  
ボランティアセンター・ボラセンと表記します。

実践活動内容（どんなことを話し合い、行ったか）

第1回  
会合  
(6/8)

1) 委員紹介  
2) 委員長・副委員長の選出  
3) これまでの当委員会の経過説明  
4) 今年度の協議内容及び年間スケジュールについて説明  
・能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会との関係性確認  
◎毎月第3水曜日(19:30~21:00 冬季は19:00~20:30) 「寺井地区公民館」にての開催を決定

第2回  
会合  
(7/21)

1) 第1回アクションプラン推進協議会・評価委員会の報告確認と年間スケジュールの確認  
2) アクションプランの取組みの経緯の確認と今後について検討  
3) 昨年度までの報告を詳細に行い、新規委員の方も発言できるよう「ボランティア」「ボラセン」のイメージや日ごろの自身の活動からの思いを自由に語り合い、共通認識を深めた。  
4) ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の開催についての確認  
・年間3回開催・ボラセンづくり委員と兼務の方が8割のため、同日開催。  
5) 福祉協力校活動連絡会の説明と周知、参加呼

第3回  
会合  
(8/18)

1) 福祉協力校活動連絡会の報告  
2) 昨年度の「よろっさ やろっさ つなごっさウィーク」の分科会で収集したボラセンに望まれる意見の整理  
・2グループに分かれて模造紙上で作業し、意見をまとめた。

第4回  
会合  
(9/15)

1) 第2回アクションプラン推進協議会の報告確認  
・今年度の報告会(案)について意見交換・・・基本方針を委員会として了解した。  
2) 前回の2グループで分かれて整理した意見のデータ化の確認。  
3) さらに、実現の可能性を考えずに自由な意見交換。  
・「こんなことができたらいいなあ」「こんなところだったらいいなあ」

第5回  
会合  
(10/20)

「能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター第1回運営委員会」の後、引き続き開催。  
1) 前回までの2グループで分かれて整理した意見を一つにまとめた。  
・模造紙上で作業し、分類・整理した。

第6回  
会合  
(11/17)

「能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター第2回運営委員会」の後、引き続き開催。  
1) 第3回アクションプラン推進協議会報告、地域福祉フォーラム「本年度の報告の機会」について  
・候補は金曜日夜。テーマ・講師などの詳細は次回検討。  
2) ボラセンに望まれている機能等の実現に向けての意見交換⇒実現に向けたアイデアは次回検討

第7回  
会合  
(12/15)

1) 第4回アクションプラン推進協議会の報告と地域福祉フォーラム(案)について協議  
・テーマ:「よっしゃ〜、つくるぞ!我がらのボラセン」  
日時: 2月18日(金) 19:00~21:00 会場: 寺井地区公民館3階中会議室  
講師: 永井美佳氏(大阪ボランティア協会 事務局次長)  
(多文化共生・協働推進委員も務められ、幅広い見識からのアドバイスを期待)  
内容: 委員会で協議してきた報告と、ボラセンの機能について実現に向けた具体策を話し合う。  
2) 前回までの望まれるボラセンの役割・・・実現に向けたアイデアを意見交換

第8回  
会合  
(1/19)

1) 第5回アクションプラン推進協議会(1/12)の報告及び今年度の報告会について  
2月12日(土)~2月26日(土) 午後2時~4時 内容 4つのAP委員会の全体AP委員会  
・4つのAP委員会ごとの企画・社協事業の市民向け公開(オープン参加)  
2) 当委員会プログラムについての詳細や役割分担について  
・グループワークの内容・・・現在検討しているボラセンに望まれることの実現の意見をもろう。

第9回  
会合  
(2/16)

1) 第6回アクションプラン(AP)推進協議会(2/3)の報告及び今年度の報告会の最終日について  
2月26日(土) 午後2時~4時 内容 4つのAP委員会の全体AP委員会  
2) 当委員会のプログラムのグループワークの内容の決定  
①人寄せの目玉が必要。②土、日、祝日、夜間に利用できるボラセンだとよい。  
③だれでも主体的に関われる場(ここに来れば自分を活かせる)だとよい。④誰が来てもよい場(自由に入出りできる空間)があるとよい。他に、ボラセンの周知として「のみんちゃんのアレンジ」、普及意識の方策として「登録」に代わる言葉探しも項目決定。

第10回  
会合  
(3/16)

「能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター第3回運営委員会」と合同開催。  
1) 春まちぼかぼかプロジェクトの全体AP委員会に参加しての報告と反省  
2) 当委員会プログラムの反省 頂いた意見をまとめ、委員会としての提言をとりまとめた。  
3) 当委員会の評価について 意見を反映させて自己評価とした。

# 私たちのボランティアセンターに関する提言書

平成23年3月17日

能美市地域福祉活動計画アクションプラン委員会  
「私たちのボランティアセンターづくり委員会」

本委員会は、能美市地域福祉活動計画に基づき、平成20、21、22年度と、誰でも気軽に利用し、地域の様々な住民活動を支援する身近な「地域づくりの情報・活動拠点」創りをめざして、能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター機能の充実を協議検討してきました。その内容の実現化をめざすべく、基本となる項目について、本年度、能美市地域福祉活動計画アクションプラン推進協議会に報告し、社会福祉法人能美市社会福祉協議会へ提言します。

ただ、実現には、関わりを持つ人達への呼びかけと試行錯誤が必要であると認識しており、詳細についても、平成23年度以降に、更に検討を進めるものであります。よって、機能の充実にあくこのできない基本となる部分についての提言に限定されることを了承願います。

以前より報告している通り、能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センターは、既存の能美市社会福祉協議会本所「辰口健康福祉センター」内に置かれるものです。



### 意見・要望1

誰もが気軽に立ち寄れ、自由に話し合える空間と雰囲気創出が必要との意見が多くありました。そこでは、利用可能な諸施設の紹介コーナー、参加可能な地域の様々な活動の紹介コーナーや、低料金の喫茶コーナーの設置も要望が上がっています。

#### [提言 1]

「市民の交流広場(仮称)」として、だれもが集える施設としての使用を検討願います。利用可能な部屋やスペースの検討と使用可否についての回答をお願いします。現在のくつろぎ広場・うんどう広場・ふれあいコーナー・診察室1, 2・歯科診察室・けんこう相談室・計測室などが検討対象と考えられます。

### 意見・要望2

市民の多くが訪れることのできる拠点として、また、ボランティア同士の会合や交流の拠点として、土・日・祝日、夜間の利用についての要望が多く、より集いやすい所を市民は求めています。

#### [提言 2]

実行時の問題点を探るための実態調査として、ボランティアと連携する形での検討が可能です。協力者もいると思われます。その点を模索しながら、土・日・祝日、夜間のどこからでも、試行してはどうでしょうか。期間も限定はしませんが、できるだけ次年度実施を検討願います。

### 意見・要望3

情報発信・収集・整理の拠点としての充実をさらにすすめると同時に、能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センターの市民への周知にも工夫が必要です。(例えば、各家庭で保管・利用される能美市版電話帳やごみカレンダーへの記載など)

#### [提言 3]

[提言1]の広場を含むセンターの周知、ならびにセンター機能の充実のための費用を盛り込んだ事業計画を組み立て、予算配分をお願いします。

以上、よろしく願います。

平成22年度 能美市地域福祉活動計画(3年目)推進経過一覧

		平成22年度													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
推進組織	社協 理事会 評議員会		(5/24) 会会社協 研・協 修・評 議事 員		(7/30) 会会社協 研・協 修・評 議事 員			(10/15) 会会社協 研・協 修・評 議事 員					(3/29-31) 会会社協 研・協 修・評 議事 員		
	評価委員会 (10名) 田中邦一委員長		委員委嘱と委員 長・副委員長の 選任 ほか	No.1評 (6/25)									No.2評 (3/24)		
	アクションプラン 推進協議会 (8名) 高塚亮三会長		委員委嘱と会長 ・副会長の選任 ほか	No.1推 (6/26)	活動計画の進捗 状況の把握	No.2推 (8/24)	活動計画の進 捗状況の把握		No.3推 (10/28)	活動計画の進捗 状況の把握,ち いきふくしウー クに向けての検討 ほか	No.4推 (12/8)	No.5推 (1/12)	活動計画の進捗 状況の把握,ち いきふくしウー クに向けての検討 ほか	No.6推 (2/3)	
	地域福祉人づ くり委員会 高塚亮三委員長		第1回:概要の説 明、委嘱交付、委員 長・副委員長の選 任、ほか	No.1委 (6/8)	No.2委 (7/6)	No.3委 (8/3)	No.4委 (9/14)		No.5委 (10/13)	No.6委 (11/6)	No.7委 (12/6)	No.8委 (1/6)	No.9委 (1/14)	No.10委 (2/7)	
	ともろっ さ・能美	とも1 (4/27)	とも2 (5/21)	とも3 (6/24)	とも4 (7/15)	とも5 (8/23)		とも6 (10/8)	とも7 (10/25)	とも8 (11/24)	とも9 (11/26)	とも10 (12/3~9と22)	とも11 (1/11)	とも12 (2/17)	とも13 (2/19)
	ふれあい 福祉事業 実行委員会											実1 (1/6)	実2 (1/14)	実3 (2/7)	実4 (3/1)
	地域福祉ネッ トワークづく り委員会 井上徹委員長			No.1委 (6/8)	No.2委 (7/21)		No.3委 (9/22)		No.4委 (10/27)	No.5委 (11/24)	No.6委 (12/21)	No.7委 (1/19)			No.8委 (3/4)
	重点地区 地域福祉 委員会			重点地区6地区 を募集 実践編を受講	実践編 No.1 (7/5)	実践編 No.2	実践編 No.3 (9/16)		実践編 No.4 (10/22)			連絡会 (1/17)		報告会 (3/20)	報告会 (3/12)
	地域福祉支え あいのしくみ づくり委員会 喜多泉委員長			No.1委 (6/8)	No.2委 (7/23)		No.3委 (9/8)			No.4委 (11/18)	No.6委 (12/20)	No.6委 (1/28)			No.7委 (3/14)
	ファミリーサ ポートセン ター運 営委員会		No.1 ファミ (5/13)				No.2 ファミ (8/5)			No.3 ファミ (11/11)		No.4 ファミ (1/27)			No.5 ファミ (3/22)
	私たちのボラ ンティアセン ターづく り委員会 西川方敏委員長			No.1委 (6/8)	No.2委 (7/21)	No.3委 (8/18)	No.4委 (9/15)		No.5委 (10/20)	No.6委 (11/17)	No.7委 (12/15)	No.8委 (1/19)	No.9委 (2/16)		No.10委 (3/16)
	ボランティア・コ ミュニティ活動 支援セン ター運 営委員会								No.3 ボラ (10/20)	No.2 ボラ (11/17)					No.3 ボラ (3/16)

第6回能美市社会福祉大会・第3回能美市民ボランティアフェスティバル(十月三日)

よろっさ  
2月12日(土)  
5  
2月26日(土)  
ま  
ぼ  
市内各地で13のプロジェクトプログラムを展開